

丹沢ボラネット瓦版

2024年2月号 No.117



自然環境保全センター自然観察園 Y28 杭からの風景（令和6年1月17日撮影）



丹沢ミズヒ沢の大滝（令和5年5月3日撮影）



滝周辺に生えているイワタバコ

2023年度丹沢大山自然再生活動報告会

報告者 ボラネット世話人会 代表 小林 昭五



全体目標 人も自然も生き生きとした丹沢大山 奥山域 うっそうとしたブナ林の再生
↑写真 丹沢山ブナ林と木道 2022.5.4

関東大震災から100年

2023年度の丹沢大山自然再生活動報告会のテーマは

「**関東大震災から100年～歴史から見る丹沢～**」です。

震災当時の様子や今まで続く自然環境への影響について、改めて
長期的な視点でとらえ、今後の自然再生を考える契機とします。

プログラム

日 時：令和6年1月21日（日）13:00～16:30

会 場：横浜情報文化センター 6階 情文ホール

主 催：丹沢大山自然再生委員会

共 催：神奈川県自然環境保全センター

第一部 活動・研究報告

13:10～13:30 報告①丹沢大山自然再生のこれまでの道のり
丹沢大山自然再生委員会 勝山輝男

13:30～13:50 報告②丹沢中津川流域における崩壊地の
46年間の推移
日本大学生物資源科学部森林学科 園原和夏

13:50～14:10 報告③三ノ塔の震災復旧工事箇所の植樹活動

NPO法人丹沢自然保護協会 中村道也

第二部 シンポジウム

14:25～15:00 基調講演 関東大震災と土砂災害

一般財団法人砂防フロンティア整備機構 井上公夫

15:00～15:25 話題提供①震災直後の相模大山の土石流とその復興

－災害の記録－

伊勢原市教育委員会 諏訪間伸

15:25～15:50 話題提供②青根地区の伐木事業と関東大震災

－大倉組伐木記念碑をめぐって－

相模原市立公文書館 井上泰

15:50～16:30 総合討論

右写真→

再生委員会の鈴木先生が西丹沢で撮った写真と震災後の崩壊跡を残している昭和初期の同じ場所の写真です。

大正12年9月1日 大地震後

丹沢の約八割は崩壊して真っ白に見えたという証言もあります。

昭和初期にも崩壊地が広域に見えたのが現在ではうつそうとしたブナ林等自然林が回復していることが一見して理解ができました。

日大森林学科の園原さんの研究発表からも裏付けられました。

46年間の地形的崩壊地の様子と緑の復活関係はどのような仕組みか分かりました。

4年ぶりの会場開催でした。

参加申込者130名 参加者98名

当日の天気が影響したと思えます。

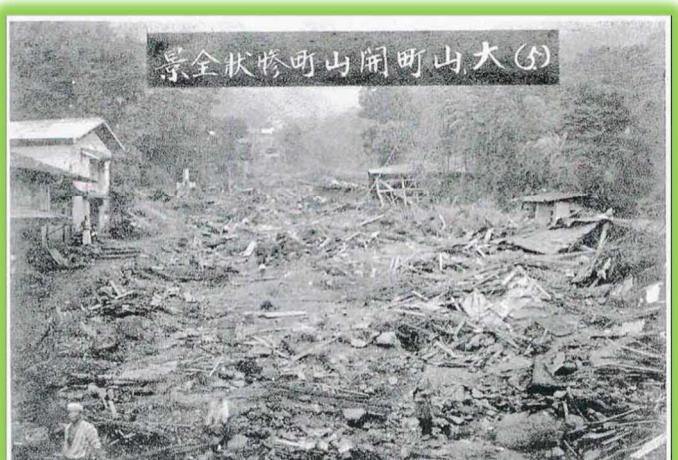
アンケートはおおむね好評でした。

普段は聞くことができない話を聞けた。(多数)

今回は最後の総合討論が会場と登壇者が一体になって考え会場からも意見が出た事が特徴であり、報告会の成功へつながった。

ボラネットからは丹沢自然学校が質問や意見を述べ討論を深化させていたのが注目に値しました。

関係の皆様お疲れ様でした。



大山町開山町惨状全景

↑写真 伊勢原市教育委員会 諏訪間伸 発表資料

丹沢大山ボラネット加盟団体からの投稿

丹沢環境推進会議 議長小林 昭五

続 関東大震災から100年

丹沢大山ボラネット瓦版115号に引き続き、探険活動の成果を活動報告します。
丹沢環境推進会議は関東大地震により震生湖誕生100年を記念し震生湖の地質学的、
地理学的、調査研究をしました。

震生湖は115号でも触れたように大磯丘陵の北西部(渋沢丘陵)の秦野市と中井町に
あります。市木沢(いちぎざわ)の最上流の源流が震災により震生湖になりました。

右地図 震生湖周辺の地形図
秦野市教育委員会
震生湖誕生100周年記念誌より
市木沢の南斜面が250mに渡り崩落し
震生湖(堰止湖)誕生しました。

赤い部分 地滑り崖

緑の部分 崩壊した土砂が沢を

塞いだ堰止め部分



↓写真 現在の崩壊地跡(R5. 12. 3)

震生湖周辺(国土地理院地図より作成)



現在の堰止め部分は太陽光発電所

昭和9年・崩壊地を遠足で見学(記念誌写真より)



大磯丘陵(渋沢丘陵)市木沢付近の地質

現在の市木沢源流は太陽光発電所の東側下方が源流になっています。

右写真の市木沢の源流最後の急勾配の土手を登り切ったところに太陽光発電所が見える。

渋沢丘陵の地質

地質学的には新生代 第4期 更新世

後期更新世(13万年以前)の地層を主としている。

箱根や富士火山の噴出物など堆積しました。

丘陵は、隆起を続けました。その結果浸食作用が激しくなり、市木沢等では渓谷が険しく地震、豪雨等により地滑りや陥没、崩壊が多か所で起こってきました。

渋沢丘陵周辺に栃窪など窪の地名があることから崩壊が起りやすく陥没が多い丘陵であることが分かります。

市木沢の探険、地層を研究

1 東京軽石層

太陽光発電所まで100mの右岸に露頭があります。浸食の窪地が有る。

→露頭全体写真 平行に地層がある。

右写真 部分拡大写真

白い部分(60cm)、東京軽石層(TP)



約5.5万年前の箱根火山噴出物

R5. 12. 3撮影

上の暗い紫の地層、東京軽石流堆積物(TPf1) 高温の火碎流が堆積したもの。

この東京軽石層(TP)が滑り台になり上部地層が大崩壊して震生湖が誕生したと考える。

ボーリング等の調査により判明しました。

2 震生湖逆断層 1 TP写真の70m下流 市木沢には断層がたくさんあります。

左写真 全体

右写真 部分拡大



下の白い部分を含む地層群

→新しい地層

上の赤茶色部分を含む地層群

→古い地層

下の地層が垂直なのは、断層面が激しくこすられ上を向いてしまった。 R5. 12. 3撮影

上部地層 火山灰を主にするローム層(古い地層)

下部地層 白色の淡ピンクの軽石層が目立つ。Tm2と名付けられています。(新しい地層)

NPO 法人 野生動物救護の会さまが最近の活動状況を報告して下さいました。

NPO 法人 野生動物救護の会 事務局

自然発見クラブ「身近な野鳥のための巣箱づくり」

今年も 2 月 17 日に、神奈川県自然環境保全センター・レクチャールームで自然発見クラブ「身近な野鳥のための巣箱づくり」を開催しました。当日の参加者は大人と子供合わせて 14 名、運営スタッフは理事長、副理事長、事務局長ほか会員 1 名でした。



最初に、人間の身近に生息している樹洞繁殖性の野鳥にとって、子孫を残すために樹洞の代わりとなる巣箱が重要であることを、スライドを使って簡単に説明しました。その後、全員で巣箱を作成しました。釘と金づちを持って真剣な表情で巣箱を組み立てて、絵の具やマジックペンを使って絵を描いたり、色を塗ったりして楽しんでもらえたようです。



最後に巣立ヒナの誤認保護に関するお話をしました。参加者全員が熱心に話を聞いてくれました。今回の巣箱づくりをきっかけに、丹沢大山に生息する野鳥たちに興味をもって、自然環境の保護活動に参加してくれる人が増えていくことを願っています。

この活動は、丹沢の緑を育む集い「ボランティア団体活動助成事業」からの助成金を使って実施いたしました。



朽ちかけた倒木に生えるきのこ（令和6年1月17日）
自然環境保全センターにて